

【市長】 選手や競技を市全体で応援し、沼津で育った選手がメダルを獲得することを想像するだけでわくわくします。沼津にはフェンシング専用の練習場があるんですが、これは県内で唯一と聞いています。他には、子どもたちの技術向上やフェンシングの普及を目的とした「ぬまづ小学生フェンシング大会」も開催4年目を迎え、年々参加する小学生剣士が増えています。大きな大会を招致できる会場の整備もできつつあり、フェンシングの機運も高まっています。

【太田】 それは心強い！特区実現に向けた追い風になりますね。

【市長】 今後も沼津が世界に注目される「フェンシングの聖地」となるように積極的に取り組んでいきたいです。

【太田】 僕はフェンシングが世界各地で発展していくために、日本からできることは何かという視点で常に考えていて、フェンシング特区構想の成功は国内だけではなく、世界に大きなインパクトを与えられると信じています。

【市長】 国内だけでなく世界もですか。

【太田】 今はアジア全体でスポーツに対する関心が高まっていて、特に中国はフェンシング人口がものすごく増えているんです。沼津で子どもたちの国際大会が開催されたら、たくさんの方から人が来てくれて、沼津の子どもたちは国際感覚を身につけることができ

広い視野を持つ



いが生まれるよう進めています。

【市長】 いいですね。世界の人たちに沼津の魅力を直接伝えられますし、私たちは沼津にしながら多様な文化に触れることができます。これは市民の皆さんにとって貴重な体験となるでしょう。

【太田】 海外から人を呼び込むだけでなく、沼津の人たちが世界に飛び出すなど可能性はどんどん広がります。

【市長】 太田さんの発想には驚かされます。沼津ではフェンシングの他にも様々なスポーツが行われています。沼津の海の素晴らしい景観を活かしたサイクリングは国内外から注目を集めており、スポーツを通じた交流人口を増加させるような施策にも力を入れていくところです。多くの人を受け入れられるよう、市民の皆さんにもポジティブに捉えてもらい、グローバルな賑わいが生まれるよう進めています。



頼重秀一

沼津市長

1968年沼津市生まれ。沼津市体育協会副会長や沼津市スポーツ少年団本部長を務めるなど、スポーツによる地域づくりに力を注いできた。市長就任後は、沼津の魅力を活かし、スポーツを通じたまちづくりを進めている。自身もサッカーやサイクリングなどの経験があり、現在も様々な団体の活動に参加するなど、スポーツに積極的に関わっている。

スポーツでもまちづくりでも意識って重要ですね。

スポーツに秘められた力

【市長】 選手としても協会の会長としても活躍し、プレーヤーとマネジメンターの両方の視点を持っている太田さんにとって、スポーツの魅力とはズバリ何ですか。

【太田】 まずは心と体の健康です。そして選手同士だけでなく、サポーターやファンとのコミュニケーションがとれる、さらには競技を通して世界に羽ばたくことができるなどスポーツにはすごい力があると感じています。

【市長】 私も運動している子どもたちの笑顔や高齢の方が元気に活動している姿を見ると嬉しく思います。健康だけではなく、世代間の交流により、まちに活気があふれるなど様々な可能性があることから沼津市でもスポーツを通じた取り組みを推進しています。

フェンシングと沼津の可能性

【市長】 日本フェンシングの発展のために太田さんが考えているプランはありますか。

【太田】 スポーツの発展には拠点づくりが本当に重要なんです。地域に溶け込み、地域と協働していくことが大切です。日本代表のヘッドコーチ級の人材を地方に置くことでトップアスリートがその場所に練習に行くという仕組みをつくっていきたくと考えています。選手はトレーニングをするだけでなく、



地域の人たちとふれあったり技術や考え方を教えたりと地域貢献ができるように、子どもたちも第一線で活躍する選手を身近に感じることができると、そんなフェンシング特区をつくりたいという構想があるんです。

【市長】 特区実現には、ソフト面でもハード面でも環境を整えていくことが大切です。

【太田】 それが交通の便も良く、スポーツを通じたまちづくりに力を入れている沼津で実現できるとすれば理想的です。いつかは沼津を「なんでこんなにフェンシング人口が多いの？」と言われるようなエリアにしていきたいです。そうならば沼津からオリンピックのメダリストが生まれる可能性も大いにあると思います。

ひとりのアツい想いが世界を変える力を持っている。

太田雄貴

公益社団法人日本フェンシング協会会長

1985年京都府に生まれ、滋賀県大津市で育つ。小学校3年からフェンシングを始め、2004年のアテネ大会から4大会連続でオリンピックに出場し、北京、ロンドン大会で銀メダルを獲得。東京2020オリンピック・パラリンピックの招致活動ではプレゼンターとして活躍。2016年に現役を引退、2017年に日本フェンシング協会会長、2018年に国際フェンシング連盟副会長に就任し、フェンシング競技の普及・発展に全力を注いでいる。

